

e-ラーニング ICT 支援員 養成講座

GIGA スクール構想の結果、学校には児童生徒一人1台のパソコンが配備されました。そのパソコンを有効に活用する環境を整備する人材の育成が急務となっています。



情報技術基礎コース

受講対象者

学生・これから社会人になる人・基本的な ICT リテラシーを身に付けたい人

情報処理推進機構 (IPA) 作成の IT スキル標準 V3, レベル1「職業人として備えておくべき、情報技術に関する共通的な基礎知識」の習得を目標としたコースです。

情報技術系 15 回 (各回平均 45 分)、ストラテジ系・マネジメント系 15 回 (各回平均 45 分)、全 30 回で構成されています。修了後は、IT パスポート受験レベルの情報技術の知識が身につくとともに、上級者の指導のもと、業務の分析・システム化の支援や情報活用ができるようになる人材を目指しています。

ICT 支援員自己研修コースと同時受講可

企画・制作 情報ネットワーク教育活用研究協議会
株式会社ハイパーブレイン
監修 永野和男 (聖心女子大学名誉教授)
榎本竜二 (情報ネットワーク教育活用研究協議会)
イラスト 合同会社かんがえる

A 情報技術基礎 コース カリキュラム

A1 情報技術の基礎知識

企業における経営戦略と担当業務の関連、システム開発のライフサイクル、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントおよびシステム監査などの基本的な知識を学習します。

- A1-1 コンピュータ上での情報表現
- A1-2 プログラミングの役割
- A1-3 コンピュータの種類と構成する装置
- A1-4 ソフトウェアの種類と役割
- A1-5 システム処理形態と処理方式
- A1-6 前半のまとめ
- A1-7 マルチメディアとヒューマンインタフェース
- A1-8 ネットワーク技術の活用①
- A1-9 ネットワーク技術の活用②
- A1-10 データベースの技術①
- A1-11 データベースの技術②
- A1-12 情報セキュリティ対策①
- A1-13 情報セキュリティ対策②
- A1-14 後半のまとめ
- A1-15 総合評価



A2 情報システムの管理・運用

情報のデジタル化とアルゴリズム、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データベースおよびセキュリティに関する基本的な知識を学習します。

- A2-1 情報化の変遷と規格の標準化
- A2-2 業種別、業務別の代表的なシステムの概要
- A2-3 企業活動と企業会計の基本用語
- A2-4 情報化戦略を策定するために必要な基本用語
- A2-5 情報システム戦略の目的と考え方
- A2-6 業務要件定義と解決策の検討
- A2-7 企業規範と身近な法律用語
- A2-8 前半のまとめ
- A2-9 ソフトウェア開発プロセスの作業概要と手順
- A2-10 代表的なソフトウェア開発手法の概要
- A2-11 情報化におけるプロジェクトの種類とプロジェクト遂行の手順
- A2-12 システム運用に関する基本用語
- A2-13 システム監査の種類と必要性
- A2-14 後半のまとめ
- A2-15 総合評価

◆ 受講期間 ◆

ID 発行から
1 年間

開講特別価格

受講料	個人受講 ※税込	教育機関・研修機関 団体 (アカウント一括発行)					(/ 1アカウント) ※税込
		10 ~ 19 アカウント	20 ~ 29 アカウント	30 ~ 39 アカウント	40 ~ 49 アカウント	50 ~ 74 アカウント	75 ~ 100 アカウント
情報技術基礎コース	5,100 円	4,600 円	4,400 円	4,200 円	3,900 円	3,500 円	250,000 円 (総額)
ICT 支援員自己研修コース	7,900 円	7,400 円	6,900 円	6,400 円	5,700 円	4,900 円	350,000 円 (総額)
両コース同時受講	10,700 円	9,900 円	9,100 円	8,500 円	7,900 円	6,600 円	480,000 円 (総額)

※ 団体申込は10アカウントから

ICT 支援員自己研修コース

情報ネットワーク教育活用研究協議会 ICT 支援員評価研究プロジェクトが作成した ICT 支援員養成プログラムに基づき、ICT 支援員として学校で働くことができるようになる自己研修のためのコースです。

第1部「学校・教員とその支援」、第2部「知っておくべき教育情報化の知識」、第3部「知っておくべき法令・ポリシー」、第4部「授業・学習とその支援」の4部（各8回）の32回で構成されていて、教育現場での具体的な活動ほか教育の情報化や関連法規など必要な知識や技能を学習できます。

修了後は ICT 支援員認定試験受験レベルの知識が身に付くだけでなく、実務を通してあいまいだったもの、疑問だったものを確認しなおすことができるカリキュラムになっています。教員を目指す学生や、学校現場で働きたい人たちにとっても、リアルな学校現場の知識を得られるコンテンツです。



情報技術基礎コースと同時受講可

企画・制作 情報ネットワーク教育活用研究協議会
ICT 支援員評価研究プロジェクト
株式会社ハイパーブレイン
監 修 永野和男（聖心女子大学名誉教授）
小田和美（情報ネットワーク教育活用研究協議会）
イラスト 合同会社かんがえる

B ICT 支援員自己研修コースカリキュラム

◆ 受講期間 ◆
ID 発行から
1 年間

B1 学校・教員とその支援	B1-1 教員養成の仕組み（教員免許状） B1-2 教育にかかわる業務と教員の役割 B1-3 教員との連携 B1-4 教員研修の計画・実施への支援 B1-5 教員へのアドバイス（初心者・苦手な教員・活用教員） B1-6 ホームページ作成への支援 B1-7 自治体のポリシーと学校の実態に応じた支援員の役割 B1-8 学校支援に関するその他の仕事
B2 知っておくべき教育情報化の知識	B2-1 情報のデジタル化 B2-2 ネットワーク（インターネット）の仕組み B2-3 ネットワークの構成機器 B2-4 学校のネットワーク B2-5 ネットワークトラブルと適切な対応 B2-6 仕事で利用されるソフト・アプリ B2-7 ファイルの共有と管理 B2-8 まとめ・確認テスト [1]
B3 知っておくべき法令・ポリシー	B3-1 学校組織の理解 B3-2 労働基準法等・業務の範囲 B3-3 ハラスメント B3-4 学校教育法（憲法⇒教育基本法⇒学校教育法） B3-5 学習指導要領 B3-6 著作権法 B3-7 情報セキュリティポリシー B3-8 個人情報保護法
B4 授業・学習とその支援	B4-1 年間計画・教育課程・指導案等の理解 B4-2 学習の目的に応じた授業の支援 B4-3 情報活用能力育成を目的とした授業の支援 B4-4 情報モラル教育の学習支援 B4-5 プログラミング教育と学習支援 B4-6 GIGA スクール構想と一人一台の学習端末 B4-7 メディアセンターとこれからの学習支援 B4-8 まとめ・確認テスト [2]

受講対象者

これから ICT 支援員として活動する人・すでに活動している人・教員をめざす学生・学校で働く人

ICT 支援員に求められる能力は自治体によって様々です。

ただ、どの ICT 支援員にも付けておいてほしい力というのは存在します。この e-Learning を実施することで、知識面を強化し、現場で戸惑わない基礎を作りましょう。

ICT 支援員は人とコミュニケーションをする仕事です。そちらの能力についても意識して伸ばしていきましょう。



受講の流れ

申し込み
料金支払い
個人認証（修了証の真正性を保つため）
受講
申し込みコースの最終評価合格
修了証

※個人認証に SMS 機能を利用します。SMS が受信できるスマートフォンをご用意ください。

申し込み



URL

<https://jnk4.info/e-LearningCourse/>

お問い合わせのメール
e-learning@jnk4.org

注意事項

・e-Learning 受講中の通信パケットについては受講者のご負担となります。ご了承ください。

・動作環境： Google Chrome
Microsoft Edge
Safari

※全て最新版でお願いします。

※Internet Explorer では使用できません。